

シンポジウム  
「先端的な医科学技術がもつ生命倫理の課題」  
～どこまでその技術を使ってよいのか？  
技術が画期的であるほど倫理的課題が生じる。  
その課題を分かりやすく解説する！～

2024年2月29日(木)  
17:00～19:00

オンライン開催  
参加費：無料

主催：公益社団法人日本医師会

司会：渡辺 弘司(日本医師会常任理事)  
開会挨拶 松本 吉郎(日本医師会会長)

17:00～17:05

座長：永井 良三(自治医科大学学長)

シンポジウム①

17:05～17:40

多能性幹細胞からヒト胚に類似した構造を誘導する研究の最新知見と展望

高島 康弘(京都大学iPS細胞研究所 未来生命科学開拓部門)

iPS細胞に代表されるヒト多能性幹細胞を用いることでヒト胚に類似した構造体を誘導することが可能になった。究極的な臓器を作りだせる可能性が膨らむとともに新たな生命倫理問題も惹起している。世界的に研究が加速する本分野を概説する。

シンポジウム②

17:40～18:15

受精卵へのゲノム編集遺伝子研究に関する世界的な取り組みや考え方

阿久津英憲(国立成育医療研究センター研究所 再生医療センター)

ゲノム編集技術が進展する中、2018年にゲノム編集ベビーが誕生。受精卵へのゲノム編集は遺伝病のリスクを低減する可能性があるが、科学的・医学的な憂慮事項はまだクリアされていない。国際的な議論で科学的ガバナンスの模索が進行中。受精卵の課題についても報告する。

シンポジウム③

18:15～18:50

倫理的・法的・社会的な課題とその解決に向けて

神里 彩子(東京大学医科学研究所 生命倫理研究分野)

人の生殖に関わる新しい技術は、「生命」「親子」「家族」の概念、そして、これらを基盤とする社会に影響を及ぼし得るものである。そのため、新技術を社会としてどのように利用していくか議論が必要である。本報告では、議論が必要な課題を概観し、その解決に向けた道筋を考えたい。

意見交換

18:50～19:00

<問い合わせ先> 日本医師会医療技術課 igika@po.med.or.jp

参加方法、単位取得条件等は裏面をご覧ください

# 参加方法、単位取得条件等

- ◆参加者は、医師、医療関係者、学生や関係者等で、生命倫理に関心のある方あるいはこれまで学ぶ機会の少なかった方を広く対象とします。
- ◆参加費は無料です。

## 【日本医師会Web研修システム】

<https://seminar.med.or.jp/Workshop/CourseDetail/MTMyOTU-F>



※医師の方で単位取得を希望される方は、事前参加申込み(12月開始)の上で、当日、受講してください。

- ・日本医師会生涯教育制度(CC3:1.5単位)
- ・日本専門医機構認定共通講習(医療倫理:1単位)

※事前参加申込みはスマートフォン、パソコンで行うことができますが、当日はパソコンで受講してください。スマートフォンで受講はできません。

※単位取得には、シンポジウム①～③を受講し、確認テストに合格することが必要です。なお、確認テストの解答期限は、3月7日(木)です。

## 【日本医師会公式YouTubeチャンネル】

<https://www.youtube.com/channel/UCrZ632iTbtYIZ5S2CtGh6rA>



※事前参加申し込み不要で、当日ご覧いただけます。

※後日、アーカイブ配信(3月上旬から4月末予定)を行います。

- ◆参加された方は、アンケート(無記名)にご協力をお願いします。

<https://forms.office.com/r/1yhGUyLAAb>

※ご回答いただいた内容は、シンポジウムの振り返りにのみ使用いたします。

